

Interview

北上市鳥獣被害対策実施隊隊長

鶴山 博 さん

Q 実施隊の皆さんが活動を始めたきっかけを教えてください。

A 猟友会のメンバーが狩猟に興味を持つようになったきっかけは人それぞれだと思うが、自分の場合は、子どもの頃の原体験から、大人になってやってみようかと始めた。北上市が実施隊を立ち上げたのは平成 26 年からだが、実施隊員は 3 年ごとに義務づけられている技能講習の免除、狩猟税の軽減などのメリットが大きい。もちろん、「地域を守らなければ」という使命感は大きい。



Q クマの出没の頻発化、人的被害の発生を踏まえ、市としてクマ被害対策を強化していますが、これらの取り組みへの評価、さらなる取り組みの強化などについてご意見をお願いします。

A 出動手当が 4,000 円 / 日から 5,000 円 / 日に引き上げられたが、これは昼夜問わず 1 日何時間の活動でも同じ。人によって受け止め方は違うが、今後活動を続けていけるのか不安がある。緊急事態にかかる情報共有が不十分であり、昨年クマが小学校に出没した際の駆除対応など、危険が迫っていることを、市と関係機関でしっかりと共有するべきと考える。緊急時、土日・夜間でも、市や県の担当者と確実に電話で連絡が取りあえるようにしないといけないが、現状は、いざという時の対応に不安がある。

Questions

議会で出された質疑や提案は

議員

わなの設置にはわな猟免許が必要だが、市内には何人ぐらい免許取得者がいるのか。わなの設置基準と撤去基準はどうなっているか。(R7.12 通常会議補正予算)



当局

北上市鳥獣被害対策実施隊 71 名のうち、わなを取り扱える人は 39 名いる。わなの設置基準は、何度も同じ場所にきた場合とか、農作物を狙っている様子が見られた場合に設置する。わなの設置は県の許可が必要で、許可日から 30 日間となっている。

議員

北上市猟友会への出動要請、箱わなの設置、点検などの謝礼などはどうなっているか。猟友会は、24 時間体制で対応し、命がけで活動に参加している。出動報酬を大幅に見直す考えはないか。(R7.12 通常会議一般質問)



当局

出動要請は、北上市鳥獣被害対策実施隊長である猟友会会長を通じて、警戒、わな設置や見回り、捕獲対応を実施している。報酬は令和 6 年度に増額し出動 1 回 4,000 円、わなの設置や撤去 1 回 4,000 円、わなの見回り 1 回 850 円。捕獲した場合は、熊、鹿、イノシシは 1 頭 14,000 円。国の補助金に市独自で上乗せしている。また、出動時の報酬について、令和 8 年度から市としての増額を予定している。



市民の安全を守る

クマ被害対策の最前線を担う 北上市鳥獣被害対策実施隊



平野委員 田島委員

今回の特集を
担当した議員

今回の特集では、市民の安全を守るため、お仕事をもちながら、昼夜を問わず、また、危険と隣り合わせの中でクマ被害対策に向き合う、北上市鳥獣被害対策実施隊の活動をご紹介します。昨年7月以降、北上市内ではクマ出没情報が後を絶たず、人的被害を含むクマ被害が相次いでいます。9月以降の議会では、多くの議員が一般質問や予算審査でクマ被害対策について取り上げました。市は、新たな取組や、施策の拡充などを実施しています。クマ被害対策で大きな役割を期待されているのが、北上市猟友会の会員のみなさんで構成される北上市鳥獣被害対策実施隊です。

What 『北上市鳥獣被害対策実施隊』とは

北上市猟友会の会員によって結成され、現在隊員は69人。20代の隊員は2～3人で、多くは60～70代です。隊員の職業はさまざまです。

実施隊の活動時間は、ほとんどが日中の時間帯ですが、緊急時には夕方以降や深夜に及ぶこともあり、クマの被害が相次いだ昨年は、24時間体制で出動対応が求められ、疲労とストレスで体調を崩す隊員もあったと言います。

実施隊は、市から出動要請があれば、地域ごとに編成する班に出動を割り当て、可能な隊員が出動します。現場の状況を確認し、適切な場所に、県の許可を得てわなを設置します。わなの設置後、数時間で捕獲できることもあれば、そのまま逃げられてしまうこと

もあります。捕獲されないうちは、数日間はわなの見回りを行い、許可期限が来たら一旦撤去する形です。隊員のみなさんは狩猟経験を活かし、地域住民の安全を守るという強い責任感をもって活動されています。危険を伴う現場にも昼夜を問わず出動し、市民の安心につながるよう、日々取り組んでいます。



模擬銃を使用し、安全に配慮して実施しています

▲▼「緊急銃猟実地訓練」

